

瑞穂町図書館改修工事基本計画（案）



令和2年（2020年）3月

瑞穂町教育委員会

目次

瑞穂町図書館改修工事基本計画策定の背景と意義	3
メインコンセプト	4
メインコンセプトの実現に向かうためのテーマ	6
1. 誰もが利用しやすく	6
2. つながりや交流による学びの拡大	7
3. 周囲の自然環境を活かす	8
4. 地域の文化と産業を学び、支える	9
5. 安全で持続可能に	9
施設整備の基本方針	10
改修概要と配置計画	10
長寿命化の考え方	11
サービス計画の基本方針	12
サービス概要	12
蔵書計画（目標）	12
テーマ配架計画	13
学びのプログラム計画	14
管理・運営	15
管理・運営概要	15
運営体制	15
町民協働	15
改修計画概要	16
レイアウト計画	16
備品の検討	17
サイン計画方針	18
今後のスケジュール（予定）	18
参考資料	19
瑞穂町の図書館をみんなで考え・つくるワークショップの記録	19

瑞穂町図書館改修工事基本計画策定の背景と意義

瑞穂町図書館は、瑞穂町（以下「町」とする。）の人口が急増した1970年代に集中的に整備された公共施設のひとつとして、昭和48年（1973）に建築されました。その後数度の改築を経て現在の建物となっています。郷土資料館が併設されていた時期がありましたが、平成26年に郷土資料館「けやき館」にその機能が移転されました。瑞穂町図書館は開館してからこれまで、町の社会教育基盤を支える施設として多くの町民に利用されてきましたが、社会の変化や建物と設備の老朽化が進むなかで、施設と運営の両面で積極的な対応が求められています。

そこで、施設の不備を個別に修繕するための「リフォーム」ではなく、いまの地域の状況にあったよりよい図書館にするために、図書館のあり方や運営について改めて考え直し、その実現のために施設全体の「リノベーション」としての改修工事を行うこととしました。

人々が図書館に求めるものは社会の状況を反映して変化しています。「課題解決型」や「滞在・交流型」を謳う図書館の取組が各地で注目を集め、「まちの賑わいづくり」の中核施設として図書館が位置づけられるケースもあります。これまでの図書館が担ってきた、資料の収集・整理・保存・提供が重要なのはいうまでもありませんが、それに加えてどのような役割を図書館が担っていくかをこの機会に改めて定め、「リノベーション」の方向性を示すことが求められています。

改修後の図書館は、瑞穂町教育委員会がこれまで取り組んできたふるさと学習「みずほ学」をはじめとする郷土文化を育むための支援や、子どもの読書活動の推進を支えるものとなります¹。加えて本計画は、令和元年度に実施した「瑞穂町の図書館をみんなで考え・つくるワークショップ（全3回）」の意見や、図書館への町民の想いを反映した計画となるようにしています。

¹ 『瑞穂町教育委員会教育目標および基本方針』令和2年（2020）や、『第三次瑞穂町子ども読書活動推進計画』令和2年（2020）。

メインコンセプト

改修後の図書館のメインコンセプトは「本や人とゆるやかにつながり、自分の居場所と感じられる図書館」です。



- 本と本とのつながり、本と人とのつながり、人と人とのつながり

ここではシンプルに「本」や「人」という言葉でまとめていますが、「本」といってもそれは紙の書籍だけを意味するわけではありません。瑞穂町図書館ではこれまでに、地域資料のデジタル化に積極的に取り組んできましたが²、インターネット上にある膨大な無料情報も、図書館やその利用者にとって無視できないものとなっています。

² 瑞穂町図書館／温故知新 — 瑞穂町を旅する地域資料

<https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/Usr/I3303I0100/index.html> (2020年3月1日最終アクセス)

³ デジタルアーカイブで図書館は変わる ～東京都瑞穂町

<https://www.trc-adeac.co.jp/sogoten2017/04.pdf> (2020年3月1日最終アクセス)

地域資料を考えるときに、実際に地域の自然や文化を体験することで得られる情報も少なくありません。町の豊かな自然環境や、農地でいきいきと育つ野菜や花の鮮やかさ、お祭りに参加することで感じられる人々の熱気など、単に紙かデジタルかという媒体の違いを越えて、生のアナログな情報にふれるためのガイド役を果たすことも図書館には期待されています。

● 町から世界へのつながり

「人」についても、町民だけを指すわけではありません。「交流人口」や「関係人口」といわれるような、町外から町を訪れる人や、町外で暮らしている町出身者も含まれます。高齢者や障がいのある人、これからの社会を担う子どもたち等、世代や時代を越えたさまざまな人々が含まれます。

また、本や人を通じて「世界」ともつながります。世界各国の歴史や文化、経済、言葉等の学習方法を学んだり、旅行ガイドを見ながら旅の計画を立てたりすることができるのはもちろん、ファンタジーやSFといったフィクションの世界を想像力のおもむくままに楽しむこともできます。よき隣人として横田基地があるのも町の特徴なので、横田基地を通じて世界にふれる機会も提供します。

● 過去や未来へのつながり

図書館が人類の「過去」の英知を収集・保存・整理・提供する施設であることも改めて確認しておくべきでしょう。特にこれまでの町の歴史や文化を伝える地域資料は、町の誰もが関心を持ってもらえるようにしていきます。「みずほ学」を学ぶ児童・生徒の支援は、この町の「未来」を担う子どもたちを支えていくことにつながります。子どもたちをはじめ、町で暮らす「人」たちが、豊かな「未来」を思い描くために必要な「本」や情報が集まる場所として、図書館は利用者を「過去」や「未来」へとつなげていきます。

「本」や「人」に象徴されるさまざまなつながりを育む場としての図書館は、互いを拘束しあうような窮屈なものではありません。一人ひとりの時間と空間を大切にしながら、誰もが「自分の居場所」と感じられる場所になることも大切なことだと考えています。

メインコンセプトの実現に向かうためのテーマ

基本計画では、ワークショップに参加した町民等の想いを、サービスを提供する図書館職員や司書と建築家の視点で検討して、より適切なかたちで計画に取り入れています。

1. 誰もが利用しやすく

改修後の図書館は誰もが利用しやすい場所に生まれ変わります。エレベーターを設置し、段差を解消することで、高齢者や障がい者もスムーズに館内を移動できるバリアフリーを実現することはもちろんですが、高齢者や障がい者に限らず、誰もが使いやすいデザイン（ユニバーサルデザイン）になるよう工夫します。

たとえば、授乳室やこどもトイレをこどもコーナーの近くに配置することで、子育て世代が利用しやすいようにします。また、こどもコーナーを訪れた保護者の方々が読みたい雑誌や育児書を児童書と隣接したエリアに配架することで、子育て世代にとっても使いやすい図書館とすることを検討します。

レイアウトや設備といったハード面の工夫だけでなく、一人ひとりが他の利用者の気持ちを理解することを促すような、図書館利用のルールづくりなどについても検討し、「心のバリアフリー」と「心のユニバーサルデザイン」の醸成に努めます。



2. つながりや交流による学びの拡大

人と人とのつながりや交流を生み出すための仕組みや仕掛けを検討していきます。

図書館の利用者が互いにおすすめの本を紹介するなど、新たな本との出会いを提供します。たとえば、本の魅力を小さなカードに書き込んで表現したものを張り出せるメッセージボードの設置などを検討していきます。

利用者同士の交流を促進するための施策として、飲み物を提供できるような、休憩コーナーを設置します。イベント開催時などに、飲み物の提供を通して、つながりや交流の創出を促進していきます。

町内の公共施設や町の関係部署との連携についても、これまで同様に積極的に展開していきます。

また、本と人との出会いを促したり、本と本とのつながりを示したりできる、テーマごとに関連した本をひとつの棚にまとめるテーマ配架（後述）という考え方を採用します。

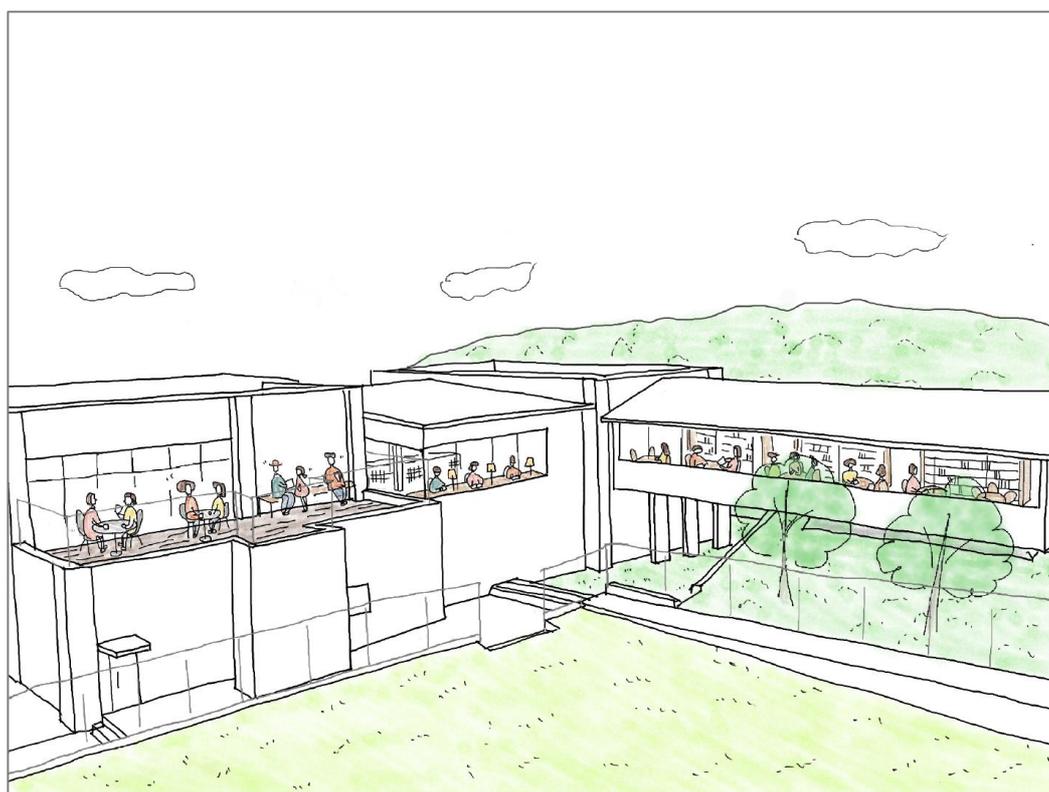
改修後の図書館は、これまで図書館を利用されてこなかった方々にとって、オープンで親しみやすく、これまで利用されてきた方々にとっても新しい出会いや発見をもたらす場所になるはずです。



3. 周囲の自然環境を活かす

図書館の北側に新たなスペースを増築し、読書や交流ができる外光を取り入れた窓側席を設けます。またこれとは別に、2階中学校側にテラス席をつくり、天気のよい日には屋外で飲食や読書ができるスペースを用意します。改修後の図書館は、屋外に開かれた明るい図書館へと生まれ変わります。

ワークショップの参加者からも、「すぐ近くの木々や自然とつながっている場」、「自然豊かな中で読書ができる場」など、自然環境に恵まれた現在の立地を生かした図書館づくりを求める声が聞かれました。こうした町民の声に応えた空間は、誰にとっても心地のよい居場所になるはずです。



4. 地域の文化と産業を学び、支える

地域の文化や産業について学ぶだけでなく、そうした活動を支える場として図書館をより多くの利用者に活用してもらえようようにします。

町には先人から受け継がれてきた伝統的な文化に加え、歴史ある吹奏楽団の活動、大瀧詠一氏をはじめとする現代のポピュラー音楽や映像技術の発展に寄与された方々があり、その足跡は町民が未来に誇れる文化的財産でもあります。こうした文化について関心を高めてもらうだけでなく、今後も活発な活動が行なわれ、新たなつながりが育まれていくための支援を、他の文化施設と連携しながら行っていきます。

産業においても、豊かな自然のなかで栽培される東京狭山茶やシクラメンをはじめ、「みずほブランド」として認定される特産品があり、また、宇宙開発に関わる先端企業の工場をはじめ、技術力の高い事業所が多く立地するなど、この町ならではの特徴があります。こうした町の産業に関心を持ってもらうだけでなく、図書館としてどのように連携して支援していけるのか、さまざまな角度から検討していきます。

5. 安全で持続可能に

改修後の図書館は、利用者や職員を守る堅牢な施設として、今後も継続して利用していくために、現在の建築基準法に準拠した2階建ての建物となります。敷地と建物全体を見直し増築を行うことで、安全性と機能性に優れた居心地のよい空間づくりを目指します。

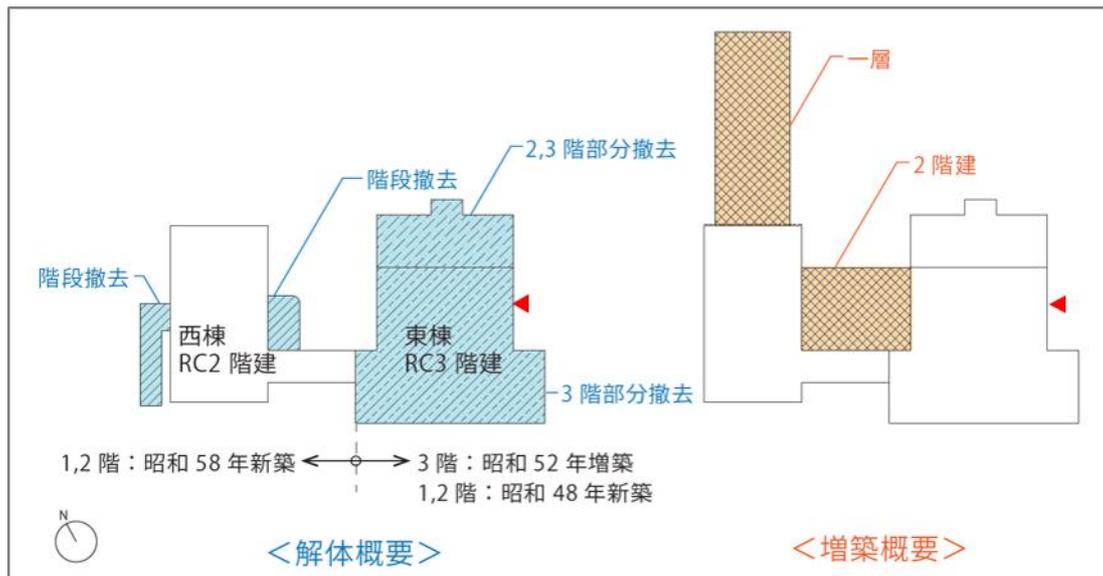
新しい図書館は、利用者だけでなく環境にもやさしい建物になります。安全で安心な公共スペースを確保し、利用者の生涯学習の機会を増やすことで、国連持続可能な開発サミットで採択された持続可能な開発目標「SDGs（持続可能な開発目標）」⁴の達成に貢献します。

⁴ SDGs（エス・ディー・ジーズ）とは持続可能な開発目標。平成27年9月の「国連持続可能な開発サミット」で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、平成28（2016）年から令和12（2030）年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための包括的な17の目標と、その下にさらに細分化された169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っているのが特徴となっている。

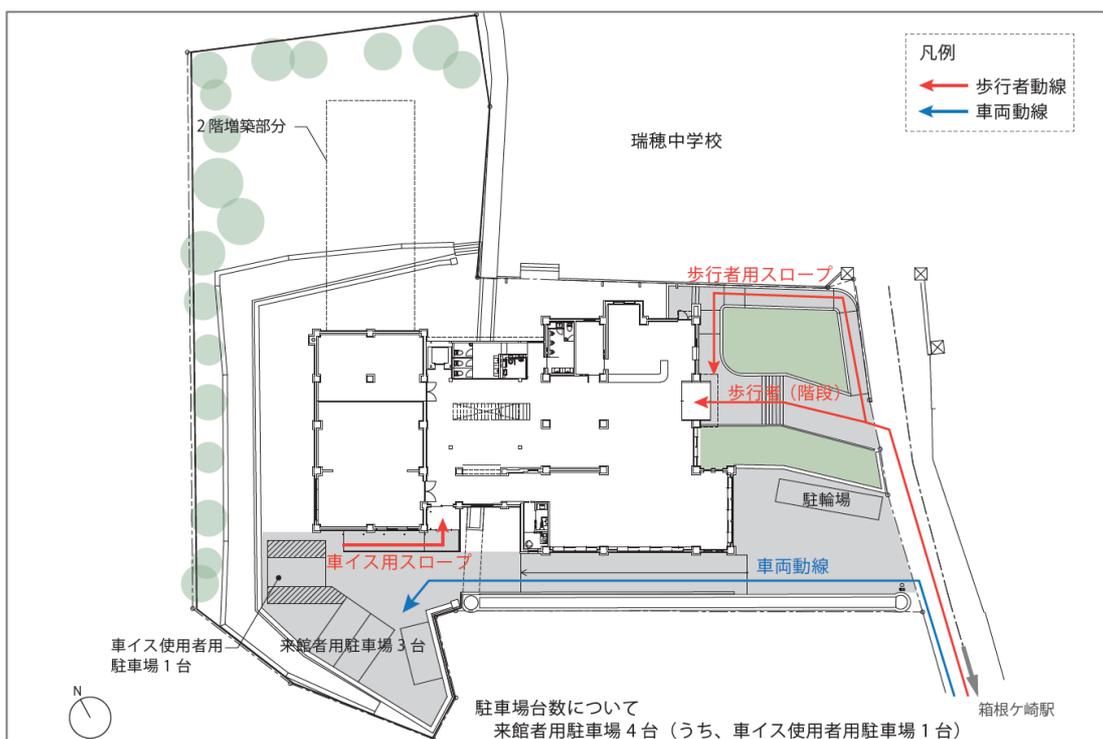
施設整備の基本方針

改修概要と配置計画

改修概要



配置計画



長寿命化の考え方

町では公共施設等の長寿命化を推進し、維持管理等に要する将来の財政負担の軽減を図るため、『瑞穂町公共施設等総合管理計画』を策定しています。同計画で「瑞穂町図書館については、建築から40年が経過していますが、引き続き長寿命化を推進するとともに、維持管理・更新等に要する将来の財政負担の軽減を図ります」⁵との方針が示されており、本改修工事もこの町の上位計画が定める方針に沿って進めていきます。

建物の使用年数は物理的な条件だけで決まるわけではありません。利用者が愛着を感じる施設の社会的耐用年数は、そうでない施設と比べて長くなります。施設として快適な状態を長期間にわたって維持していくためには、物理的な建物の点検や整備はもちろんですが、図書館に愛着を持って主体的に関わる利用者が増え、社会的耐用年数を延ばしていけるように、魅力的なサービスやプログラムを提供することも大切だと考えています。

⁵ 『瑞穂町公共施設等総合管理計画』平成29年（2017）3月 P.47

サービス計画の基本方針

サービス概要

メインコンセプト「本や人とゆるやかにつながり、自分の居場所と感じられる図書館」と、5つのテーマの実現のために、利用者に対して、瑞穂町が持つ図書館資源（施設・資料・職員・ボランティア等）を最大限に活かし、効果的かつ効率的にサービスを展開していくことを目指します。

また、町の環境や立地条件を考慮して、この場（施設）でないと得ることができないサービスに注力しつつ、他の公共施設や民間施設との連携についても継続的に取り組み、非来館型のサービス提供のあり方も含めた検討を進めます。

蔵書計画（目標）

蔵書は図書館サービスの基本ですので、原則として、多様化する利用者ニーズに対応し幅広くバランスのとれた蔵書を収集します。その中で、特に日々の暮らしや文化を支えるテーマ配架の構成を意識しながら蔵書構成を考えていきます。

デジタル資料についても検討し、既存のデジタルアーカイブ「瑞穂町図書館／温故知新 — 瑞穂町を旅する地域資料」の活用を図っていきます。特に地域の文化、産業の学びを支援する資料については、媒体を限定しない資料の充実を目指します。

■蔵書数

- ・ 開館時蔵書数：11万冊（目標）※収蔵能力：13万冊（目標）

テーマ配架計画

多様な興味関心に応える開けた書架づくりのためにテーマ配架を導入します。テーマ配架とは、従来の図書館で使われている NDC（日本十進分類法）⁶による分類を超えて、日々の暮らしに近いテーマや、地域性に根ざしたテーマなどを設定し、それらのテーマごとに資料を配置するものです。テーマ配架によって、これまで図書館を利用する機会が少なかった人びとに対しても、情報や知識に出会うきっかけを生み出し、より多くの人びとの情報へのアクセスを支える施設になることを目指すものです。NDC による管理と連携し、利用者にとっても職員にとってもわかりやすい配架を実現します。

テーマ配架の導入プロセスにおいては、ワークショップでの町民や利用者からのご意見を基点⁷に、図書館資源（施設・資料・職員・ボランティア等）を考慮した構成を検討します。さらに構成案を、情報へのアクセスのしやすさや場としての図書館管理運営の観点から、総合的にシミュレーションやワークショップを重ね、瑞穂町らしい配架構成の実現を目指します。

■テーマ配架の特徴

- ・ 地域を学び、世界を学ぶためのきっかけとなる。
- ・ 日々の暮らしや地域の活動を支える。
- ・ 紙の本を中心に、複数のメディアで構成される。
- ・ 多様な本と本のつながりを生み出す。
- ・ 利用者と図書館員の協働により進化し続ける。

⁶ 日本の公共図書館で広く使用されている図書分類法。本の内容を 10 種類の分野に分類し、各分野をさらに 10 種類の分野に分類する。例えば「100」は哲学、「120」は東洋思想、「121」は日本思想となる。広く普及した分類法で既存利用者や職員に親しまれているが、図書館に馴染みの薄い利用者にとってはなじむまでの時間を要さざるを得ないという課題もある。

⁷ ワークショップの参加者から出されたご意見については、参考資料の「瑞穂町の図書館をみんなで考え・つくるワークショップの記録」をご覧ください。

学びのプログラム計画

既存の「おはなしの会」や「読書会」、「瑞穂町図書館を使った調べる学習コンクール」に加えて、図書館資源（施設・資料・職員・ボランティア等）を最大限活かした、新たな学びと楽しみのプログラムを実施していきます。

■プログラム例

- ・ 瑞穂町の農と食を学び、地元で育った野菜を食べることができる農×食のイベント
- ・ 多世代の人が集まり、一緒に「みんなの書架」をつくるイベント など

管理・運営

管理・運営概要

多様化する町民のライフスタイルを考慮しつつ、次世代に過大な負担を残さないことを前提として、情報へのアクセスのしやすさを提供できるよう、時代の変化にも適応する柔軟な管理・運営を目指していきます。

運営体制

運営体制については、新たなサービス計画を持続的に実施していくために、司書を含む職員の適正配置と能力向上を目指します。新たな機能、サービスである「テーマ配架」等の実施には、計画におけるプロセスがきちんと継続されていくことが大切です。計画と運営を持続していくための運営体制の確立を目指します。

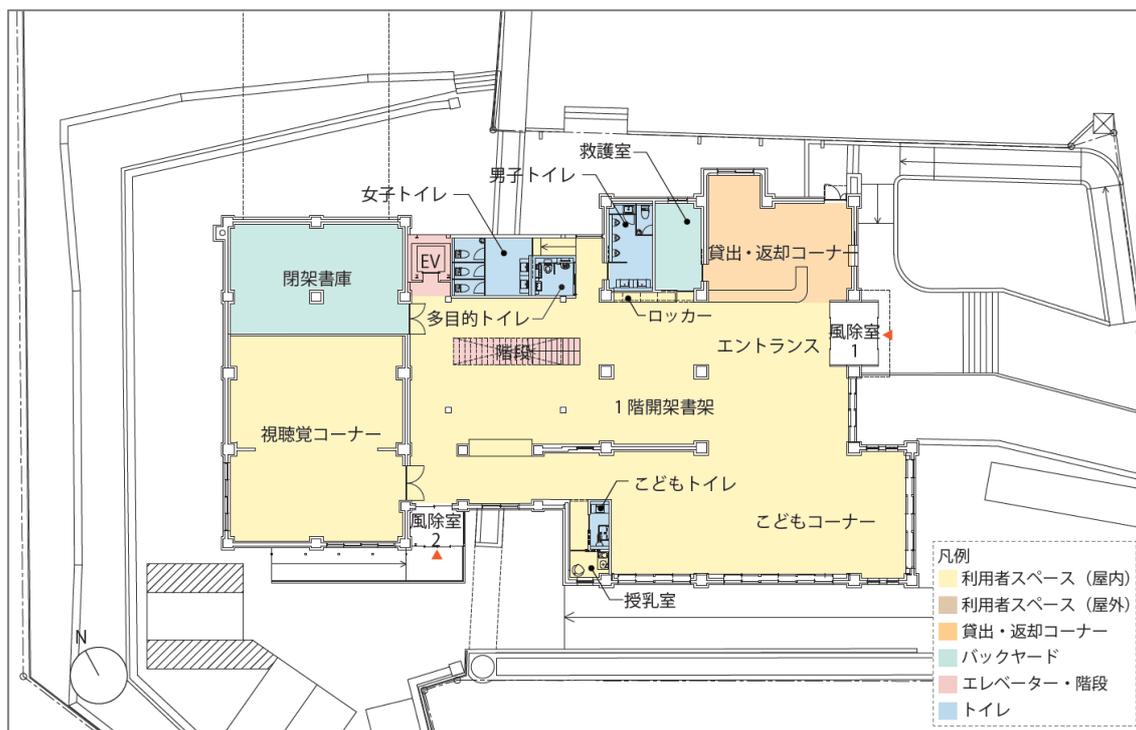
町民協働

基本計画策定後も、引き続き町民協働を進めていくことが、町民主体の図書館整備としては重要です。町民協働ワークショップの実施や各種ボランティア等との協働など、町民と一体となった取組を推進します。

改修計画概要

レイアウト計画

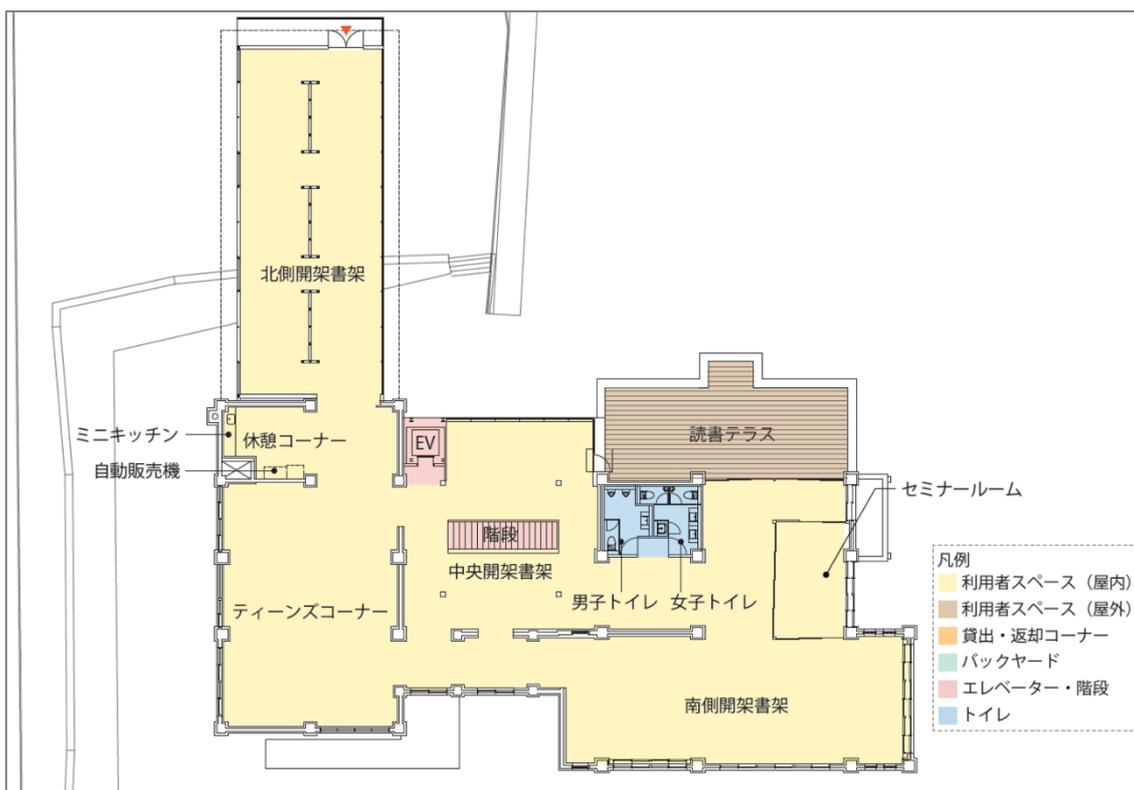
1階レイアウト



1階は図書館の導入フロアとして、これまでの基本機能を守りつつ、多様な利用者を迎え入れることができるよう、以下の機能、コーナーで構成します。

- ・ 開架書架（企画展示を含む）
- ・ 貸出・返却コーナー（貸出、返却、レファレンスを含む図書館サービス全般を行う）
- ・ 子どもコーナー（おはなしコーナーを含む）
- ・ 視聴覚コーナー（紙の資料、視聴覚資料に加え演奏活動にも対応）
- ・ 閉架書庫
- ・ その他（ロッカー、救護室、トイレ）

2階レイアウト



2階は図書館の機能やサービスを拡張するフロアとして、町民の情報へのアクセスを支えることができるよう、以下の機能、コーナーで構成します。

- ・ 開架書架
- ・ ティーンズコーナー（学習コーナーを含む）
- ・ セミナールーム
- ・ 読書テラス
- ・ 休憩コーナー（自販機コーナーを含む）
- ・ その他（トイレ）

備品の検討

読書をはじめとする図書館での多様な活動を柔軟にサポートするための「機能性」と、くつろいだ時間を過ごすための「安心感」、この2つの観点を大切にしつつ、それぞれの機能や空間、対象年齢などを考慮して、備品を選んでいきます。

備品リスト（案）

- ・ 可動書架
- ・ 閲覧テーブル、閲覧用椅子
- ・ こども用閲覧テーブル、こども用椅子
- ・ セミナールーム用テーブル、セミナールーム用椅子
- ・ テラス用テーブル、テラス用椅子
- ・ 授乳室用椅子
- ・ ロッカー

<貸出・返却コーナー>

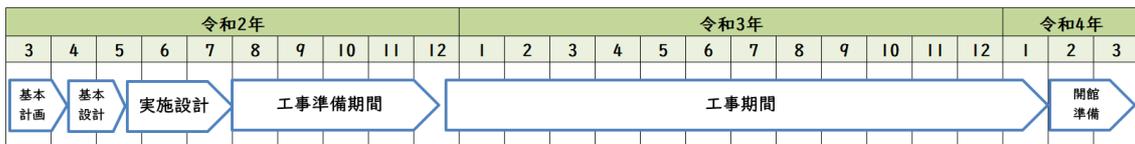
- ・ 受付用椅子
- ・ レファレンス用椅子
- ・ ブックカート、ブックリターンカート
- ・ 作業机、作業用椅子
- ・ 事務用机、事務用椅子、キャビネット
- ・ その他

サイン計画方針

すべての利用者の情報へのアクセスをサポートするサインとなるよう、以下の3つの方針に沿ってサイン計画を進めます。

- ・ 建築、書架（什器）、資料がつながるようなサインを目指します。
- ・ 環境の変化を前提とし、柔軟に対応できるサインを目指します。
- ・ 最もガイドが必要な利用者（高齢者、子ども）にやさしいサインを目指します。

今後のスケジュール（予定）



オープン予定▲

参考資料

瑞穂町の図書館をみんなで考え・つくるワークショップの記録

瑞穂町の図書館をみんなで考え・つくるワークショップの記録については参考資料を参照ください。瑞穂町の図書館をみんなで考え・つくるワークショップの記録はホームページでも確認できます。

瑞穂町図書館ホームページ

- ・ 瑞穂町の図書館をみんなで考え・つくるワークショップ報告

<https://www.library.mizuho.tokyo.jp/info/topics/3.html>（2020年3月1日最終アクセス）

瑞穂町教育委員会ホームページ

- ・ 瑞穂町の図書館をみんなで考え・つくるワークショップ（第1回）を開催しました

<https://www.town.mizuho.tokyo.jp/kyoikuiinkai/culture/007/p006949.html>

（2020年3月1日最終アクセス）

- ・ 瑞穂町の図書館をみんなで考え・つくるワークショップ（第2回）を開催しました

<https://www.town.mizuho.tokyo.jp/kyoikuiinkai/culture/007/p007090.html>

（2020年3月1日最終アクセス）

- ・ 瑞穂町の図書館をみんなで考え・つくるワークショップ（第3回）を開催しました

<https://www.town.mizuho.tokyo.jp/kyoikuiinkai/culture/007/p007105.html>

（2020年3月1日最終アクセス）